弘前周辺における農家子弟以外からの新規就農者の状況

Situation of New Farmers Except Farmer's Children in the Hirosaki Area

○藤崎 浩幸*　加藤 絵麻*

○FUJISAKI Hiroyuki*　KATO Ema*

1　はじめに

現在、農家子弟が就農しないケースが増加傾向にある一方で、農家以外で生まれ育った人の就農意欲の高まりが生じてきている[1)]。この新たに就農した新規就農者のうち農家子弟以外からの者を新規参入者と呼ぶ。新規参入者は農家子弟と異なり農地や機械設備などを一から確保する必要があることが大きな障壁となる。青森県では新規参入者が 2008 年の 22 人から 2017 年の 99 人へと増加していて新規就農者の 36%に達しているので、今後の農業経営者確保のためには新規参入者確保が重要である。

新規参入者に対して、後継者のいない農業経営者からの経営継承を支援する農業経営継承事業と呼ばれる制度（以下「第三者継承」と呼ぶ）が設けられている。この制度は、新規参入者にとり農地・機械などの有形資産と技術や販路などの無形資産を一括して入手することで収入の安定につながるメリットがある。同時に後継者がいない農家にとり、有形資産を一括して新規参入者に売却・賃貸でき、自分が積み上げてきた無形資産を継承発展してもらえるメリットがある[1)]。後継者がいない農家と新規参入希望者とをマッチングしたり、経営移譲後のフォローアップをしたりするためのコーディネーターを配置する取り組みも行われている[2)]。しかし、第三者継承の実績は全国で 2008 年からの 9 年間で 111 件でしかなく、青森県では行われていない。

本研究では、弘前地域の新規参入者を対象として、新規参入状況と第三者継承に対する意識を調査・分析することとした。

2　調査方法

中南地域県民局と弘前市への聞き取りを通じ、弘前周辺の新規参入者の概況を調査した。そして両者からの意見を踏まえ、聞き取り調査を行う新規参入者 10 人を選定し農業経営の状況や新規参入実現方法、第三者継承への意見などの聞き取り調査を実施した。

なお、弘前市で 2015～2017 年度の 3 年間に農業次世代人材投資事業を利用した新規参入者 19 人存在する。年齢は 20 代 3 人、30 代 8 人、40 代 8 人で、一度農業以外の仕事を経験してから就農した傾向がある。出身地は弘前市内 5 人、その他県内 6 人、県外 4 人、不明 4 人、主な栽培作物はミニトマト 1 人、露地野菜 2 人、ニンニク 4 人、米 4 人、法人就農の 3 人を含めてリンゴ 8 人である。

4　新規参入者の就農状況

(1) 調査対象者の概要

就農年度としては 2017 年に就農した人が 4 人(A,D,F,I) と 1 番多く、就農時年齢としては 30 歳を過ぎて新規参入した人が 9 人と過半数である。作目としてはミニトマトをメインとしての就農が 5 人(C,D,F,H,I)と 1 番多い。経営面積に関しては栽培している作目ごとに傾向が異なり、ミニトマトを栽培している人は 17～100a と狭い面積 で栽培している人がいる一方で、りんごでは皆 50a 以上の面積で栽培している結果となった。

*弘前大学農学生命科学部　Fac. of Agriculture and Life Science, Hirosaki University

【キーワード】新規就農／新規農業参入者／農業経営第三者継承事業

表 1　新規参入者の状況
Table 1 Situation of New Farmer Except from Famer's Children

人名 出身地	就農年度 就農時年齢	経営 面積(a)	作目	就農のきっかけ	知識・技術の 習得方法	資金確保 の方法	農地確保 の方法	機械等 確保の方法	最も苦労 したこと	順調だった こと
A 弘前市	2017 29	60	にんにく	自分が経営者に なりたかった	他の農家、ネット、 講習会、以前の会社	自己資金、 補助金、融資	友人	友人	土地整備	土地 農業機械
B 鰺ヶ沢	2014 34	1740	水稲、そば、 にんにく	自分が経営者に なりたかった	他の農家	自己資金、親、 補助金、融資	他の農家	他の農家	資金	人員の確保
C 黒石市	2016 34	30	ミニトマト	仕事面から 興味を持った	研修先	自己資金、 補助金、融資	役所	自分	手続き	土地
D 黒石市	2017 34	17	ミニトマト	仕事面から 興味を持った	研修先 他の農家	自己資金、 補助金、融資	知人	知人	資金	知識 手続き
E 弘前市	2015 38	245	りんご	仕事面から 興味を持った	他の農家 以前の会社	自己資金 補助金	農業委員会	店 知人	栽培技術	土地 農業機械
F 黒石市	2017 39	68	ミニトマト	補助金をもらえる と知った	研修先	自己資金、 補助金、融資	自分	研修先 店	土地整備	収穫量
G 岩手県	2016 41	56	りんご、他の果樹、 露地野菜	健康面から 興味を持った	他の農家、講習会、 自分で経験してみる	自己資金 補助金	他の農家	研修先、店、 ネット	経営理念・方針 物件探し	販路
H 平川市	2012 42	100	ミニトマト、 ねぎ、もも	自分が経営者に なりたかった	研修先 他の農家	自己資金 補助金	農業委員会	農業委員会 店	資金	無し
I 弘前市	2017 43	30	ミニトマト、 他のハウス野菜	補助金をもらえる と知った	研修先	自己資金 補助金	役所	店	作業、土地、 農業機械	収穫量
J 東京都	2016 45	94	りんご	仕事面から 興味を持った	他の農家、ネット、 講習会、書籍	自己資金、 補助金、融資	役所 他の農家	店 他の農家	土地 栽培技術	収穫量 作業

(2) 新規参入の状況

就農動機は大きく 2 つあり、自分主体で仕事を行いたい 3 人(A,B,H)と、農業や農家に興味を持ったというもの 5 人(C,D,E,G,J)である。次に、知識や技術の習得には研修先の農家から学んだ人が 5 人(C,D,F,H,I)と多く、農地や農業機械などの確保には、仲介が存在する人が 5 人(C,E,H,I,J)と多い。就農に際し苦労したことでは資金確保が 3 人(B,D,H)、土地の確保と土地整備がそれぞれ 2 人ずつである。順調だったことは、土地の確保と収穫量を順調だったことと挙げている人がそれぞれ 3 人ずついる。

(3) 第三者継承に対する意見

第三者継承の良い点として土地や設備を新たに用意しなくて済むと回答した人が最も多く 6 人(A,C,D,E,F,H)いた。第三者継承の問題点として 4 人から挙げられた回答が、土地の譲り渡しの際に昔からの農家の考えが邪魔をするであった。そして、聞き取り調査を行った新規参入者のうちの半分以上が、第三者継承の形で農業経営者の後継者になりたいと思っている。その理由としては、土地の譲り渡しがスムーズに進むため、生産の下地ができているとスムーズに参入することができるためが同数で 1 番多い理由であった。

以上のことから，農泊を宿泊先として選択してもらうためにはその土地でしか体験できない食や体験メニューを展開すると同時に，一般的な宿泊施設と同程度の価格設定を行うこと等が重要であると考える。

5　おわりに

最も苦労した点や第三者継承へ期待する理由で「有形資産」である土地の譲り渡しがスムーズに進むことと生産の下地ができている土地で始めることが可能となるということが強く期待されていた。今回は第三者継承の受け手となる新規参入者を対象に調査したが、今後は出し手となる既存農家の意識や、コーディネーターなどは仲介役の働きかけ方などについて研究を進めていくことも必要である。

引用文献　1)「農業経営継承事業の推進について」全国農業会議所 新規就農・人材対策部/全国新規就農相談センター（農政調査時報、2016）　2)「新規就農を支援する地域コーディネーターの必要性に関する検討」猫本健司、曽川満恵（酪農学園大学、2015）